

立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コース NEWSLETTER VOL. 07

Faculty of Letters | Rissho English | December 22, 2025

夏休み特別企画「学習英文法再考」が開催されました！

去る8月18日(月)、19日(火)の2日間、本学品川キャンパスにて、立正大学英文学会主催の「学習英文法再考—中学から大学まで」が開催されました。第1日目は井川壽子講師による「大学で学ぶBrush-up Grammar—大人の文法に移行するために」、中島利恵子講師（新島学園中学校・高等学校教諭）による「生徒の心をつかむ授業について考える」トークとワークショップがおこなわれました。また、第2日目には今井亮一講師による「『ピーナッツ』と英語学習—『英語教育』連載「PEAUNUTS Quips and Quirks」をもとに」、井川講師による「ゼミと卒論の紹介」、中島講師によるTeacher Talkをテーマとしたワークショップが実施されました。両日ともに学内外から多くの参加者を迎え、大学の英語教育と高校の現場の橋渡しとなる大変充実した内容の企画となりました。ご参加いただいた清水可奈子先生より報告書が寄せられましたので、ご紹介します。



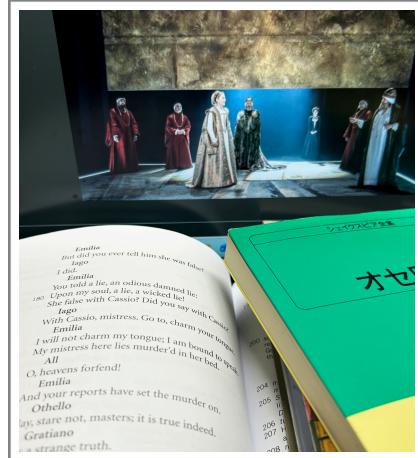
中島利恵子講師によるトーク

私は英語教育学を専門としていますが、今夏、立正大学英文学会の「学習英文法再考」講座に参加し、授業に新しい視点を取り入れるための多くの示唆を得ることができました。井川先生によるBrush-up Grammar講座では、進行形の多義性や特殊構文など、アカデミックな英文法に触ると同時に、日本語との比較を通して、言語学の奥深さを感じました。こうした学術的視点は、学習者の言語習得を促す重要な気づきを生み出すものであり、今後の授業

実践に生かしていきたいと思いました。また、今井先生による『Peanuts』を題材にした翻訳入門講座では、歴史的背景等から生まれる言葉のニュアンスを味わう面白さを体験しました。翻訳とは単なる言語の置き換えではなく、背景を読み解く営みであるという視点を再認識し、こうした理解を教科書題材の活用という具体的な授業実践に結びつける可能性を感じました。さらに、中島利恵子先生によるワークショップは、教師が話す英語がもつ意味、そしてそれ以上に、教師が学習者へ与える影響を再認識する機会となりました。心を動かす授業とは、学習者が自ら考え、自己表現する時間を通して得られる充実感をもたらすものだと実感しました。中島先生の指導には緻密な準備と深い愛情が込められており、その一つひとつに教育の重みを強く感じる時間でした。二日間にわたるこのたびの講座は教育現場に生かせる具体的なヒントが詰まった研究会であり、私が強い関心をもっている、理論と実践を往還させる教育のあり方について多くの学びを得る機会となりました。清水可奈子（関東学園大学講師）

学生のゼミ紹介 「シェイクスピアとイギリス文化を学ぶ」伊澤ゼミ

伊澤ゼミはイギリス文化・文学を主に扱うゼミです。前期には、イギリスを代表する劇作家ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『オセロ』を取り上げ、英語の戯曲、日本語訳、舞台映像を見比べながら、物語の構成や表現技法を分析したり、時代背景（特に当時の人種問題）を調べたりすることで、作品の多様な解釈を学びました。特に、英語原文と日本語訳を比較することでニュアンスの違いや翻訳の難しさがよくわかります。また舞台映像では俳優の演技や演出によってセリフの印象が大きく変わり、視覚的な表現の重要性を学びました。同じ場面についても学生によって着目するポイントや感じ方が異なり、さまざまな考えを聞くことで、新たな視点を得ることができました。



後期には、3年生は自分の興味があるテーマについての発表、4年生は卒業論文の中間発表をおこないました。シェイクスピア作品だけでなく、イギリス文化の様々な側面や、ジェンダーや人種差別といった現代的な問題をあつかう発表も多く見られました。発表内容やコメントを通じて、文学と社会の結びつきを再認識すると同時に、多様な視点からの考察が自分の学びをさらに深める良い機会となりました。（英語英米文学専攻コース4年）

立正英文学会で卒業生トークをおこないました！

「立正英文学会」は、英語英米文学専攻コースの教員と学生・卒業生を会員とする集まりです。大会を年に一回開催し、研究発表や学術講演、そして社会で活躍する卒業生によるトークイベントなどをおこなっています。今年は9月27日(土)に開催し、大学院生の研究発表に加えて、2名の卒業生にお話をもらいました。おふたりとも在学中からとても熱心に学業や英語学習に取り組んでおり、それが就職活動や現在の仕事、そして生き方にも大きくかかわっていることがわかりました。こういった卒業生は在学生にとってもよいロールモデルになるでしょう。今後も学生と卒業生をつなぐ取り組みを続けていきたいと思います。伊澤高志（イギリス文学）

2025年3月オープンキャンパス模擬授業のお知らせ

品川キャンパスでは下記の通り、オープンキャンパス模擬授業を実施します。英文コースの模擬授業にぜひご参加ください。参加方法など詳細は後日ホームページにてお知らせします。

3月15日(日) 「ティラー・スヴィフトを深く読む」 今井亮一（アメリカ文学・比較文学）

ティラー・スヴィフトが2020年に発表した楽曲“Only the Young”にはどんなメッセージが込められているか、アメリカ社会を念頭におきながら歌詞を翻訳して読み解きます。

ニュースレター、出張授業、学内ツアー、そのほか英文コースにかんする問い合わせはこちらまで
→elit@ris.ac.jp（英語英米文学専攻コース教務助手）